

維持管理計画書作成事例

(A) 新設する場合

No1.直杭式横棧橋

黄色マーカ部は、港湾  
台帳などの情報を引用  
することを想定

\*\*港 \*\*地区 \*\*棧橋

維持管理計画書

項目	内容	備考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	**港	
地 区 名	**地区	
施 設 名	**棧橋	
施 設 番 号	C-**-*	

2026年4月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 \*\*県

## 目 次

I	総論	2
I-1	計画の目標	2
I-2	維持管理の基本的な考え方	2
I-3	施設に関連する計画	2
I-4	維持管理上の諸条件	3
I-5	付随する施設との関連性	6
I-6	維持管理レベル	7
I-7	座標系、位置座標の設定	8
I-8	初回点検診断結果	8
I-9	その他の配慮事項	8
II	点検診断計画	9
III	総合評価	11
IV	維持補修計画	11
V	参考資料	12

「I.総論」における「必要な情報」と「有用な情報」の別

下線部は、定型文とすることを想定

## I 総論

### I-1 計画の目標

必要な情報

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項目	内容	備考
維持管理の計画目標期間	2026~2075年度	
設計供用期間	50年	

### I-2 維持管理の基本的な考え方

必要な情報

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項目	内容	備考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の考え方	適応策	事前適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

### I-3 施設に関連する計画

有用な情報

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項目	内容	備考
港湾計画への位置づけ	計画策定年	****年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	緊急物資輸送
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

#### I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

必要な情報

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	** 港	
地区名	** 地区	
施設名	** 栈橋	
施設番号	C-**-*	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	** 県	

(構造形式)

有用な情報

項 目	内 容	備 考
施設の種類	係留施設 栈橋	
構造形式	直杭式横さん橋	
水深	D.L.-**.*m	
延長（取付部を含む延長）	**.*m	
面積	**.*m <sup>2</sup>	
天端高	D.L.+**.*m	

(自然条件)

有用な情報

項 目	内 容	備 考	
潮位	基本水準面	D.L±**.(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+**.(m)	
	M.S.L.	D.L+**.(m)	
	L.W.L.	D.L+**.(m)	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

有用な情報

項 目	内 容	備 考		
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年	2075 年	将来作用 基準年時点	
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.		D.L+**.(m)
		M.S.L.		D.L+**.(m)
		L.W.L.		D.L+**.(m)
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.		D.L+**.(m)
		M.S.L.		D.L+**.(m)
		L.W.L.		D.L+**.(m)

(設計履歴)

必要な情報

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***土質調査	
	適用基準		
	完了年度	H**年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	***基本設計	
	適用基準	H19d 技術基準	
	完了年度	H**年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	***細部設計	
	適用基準	H30d 技術基準	
	完了年度	R**年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工履歴)

必要な情報

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***栈橋築造工事	
	完了年度	R**年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

必要な情報

通番	項目	内容	備考
1	鋼管杭	SKK*** Φ*,***mm	
2	被覆防食	重防食被覆：期待耐用年数**年	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数**年	
4	基礎捨石	転用材 **~***kg/個程度	
5	被覆石	**~***kg/個程度	
6	コンクリート	**-*-* **N	
7	鉄筋	SD***	
8	粗粒度アスファルト	As**	
9	密粒度アスファルト	As**	
10	渡版	**L × **B × **t	
11	係船柱	曲柱*,***KN ***	
12	防衝設備	***製 **型 ***H	
13	車止め	***製 ***H型	
14	はしご	***製 **B × ***H	

(利用状況)

有用な情報

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項目		内容	備考
主要利用船舶の種類名		***船	
主要取扱貨物		***	
対象船舶	船型	**,***D/W	
	船席数	**バース	

### I-5 付随する施設との関連性

付随する施設との関連性は係留施設のみに記載

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

		有用な情報	
(付随する施設)			
通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	***泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	***荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	***上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	***道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

		有用な情報	
(接続する緊急輸送道路)			
通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	***自動車道	
	規 格	高規格道路	
2	道 路 名	国道**線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

必要な情報

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
上部工 (栈橋上部工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
下部工 (鋼管杭の被覆防食)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
下部工 (鋼管杭の電気防食)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
下部工 (鋼管杭)		Ⅰ (事前対策型)	A	—
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
エプロン 海底地盤 渡版		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	
			C	経過観察措置
			D	
土留部	ケーソン	Ⅰ (事前対策型)	A	—
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
土留部	上部工 エプロン	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	
			C	経過観察措置
			D	
付帯設備	係船柱 防衝設備 車止め はしご	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	
			C	経過観察措置
			D	

**I-7 座標系、位置座標の設定**

有用な情報

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

**I-8 初回点検診断結果**

必要な情報

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	内 容	備 考
初回点検診断	2025 年	一般・詳細

**I-9 その他の配慮事項**

有用な情報

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

## II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、定期点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5年以内ごとに少なくとも1回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも1回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度5強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(定期点検診断の時期)

本施設の定期点検診断の実績及び実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
栈橋法線		凹凸、出入り	一般	点検診断ガイドラインによる
エプロン		沈下、陥没	一般	点検診断ガイドラインによる
		アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
鋼管杭		鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
		被覆防食工（重防食被覆）	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
		電気防食工電位	一般	点検診断ガイドラインによる
		電気防食工（陽極）	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工（下面部）		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
上部工（側面部）		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
渡版		本体の損傷、塗装	一般	点検診断ガイドラインによる
土留部	ケーソン	側面の劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		コンクリートの劣化、損傷	詳細	点検診断ガイドラインによる
	上部コンクリート	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
	エプロン	沈下、陥没	一般	点検診断ガイドラインによる
		アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		吸出し、空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
付帯設備	係船柱	本体の劣化、損傷 塗装の剥がれ等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる

### III 総合評価

総合評価は、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

### IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項目	内容	備考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	****年度	
	概算費用	*,***千円	
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

## V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

施設の維持管理を実施する中で、補修を行った場合、補修の設計・施行に関する情報を該当する参考資料に追加する。

参考資料①

関連図面

## 位置図

有用な情報

平面図

必要な情報

# 標準断面図

必要な情報

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

( 設計条件 (抜粋) )

項 目		内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性
		変動作用	使用性
		偶発作用	* * 性
利用条件等	設計供用期間		50 年
	計画延長		***.**(m)
	計画天端高		D.L+*.**(m)
	計画水深		D.L-*.**(m)
	設計水深		D.L-*.**(m)
	基本水準面		D.L±*.**(m)
	エプロン復員		**,**(m)
	エプロン勾配		*,*(%)(順勾配)
	対象船舶		**,**(DWT)
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **,**(cm/sec)
	牽引力		*,**(kN)
	載荷重		永続作用 **,**(kN/m <sup>2</sup> ) 変動作用 **,**(kN/m <sup>2</sup> )
自然条件等	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)
		M.S.L	D.L+*.**(m)
		L.W.L	D.L+*.**(m)
	残留水位条件		D.L+*.**(m)
	地震条件		レベル 1 地震動 kh = *.** レベル 2 地震動 * * * * 地震
気候変動の 影響を勘案した 潮位	将来作用基準年		***
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)
		M.S.L	D.L+*.**(m)
		L.W.L	D.L+*.**(m)
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)
		M.S.L	D.L+*.**(m)
		L.W.L	D.L+*.**(m)

項 目		内 容	備 考
材料特性	下部工	鋼材	規格等
		被覆防食工	重防食：期待耐用年数**年
		電気防食工	流電陽極方式：防食年数**年
	栈橋上部工	コンクリート	**-*-**N
		鉄筋	SD***
	舗装	コンクリート舗装	**-*-**N
	附帯設備	係船柱	曲柱*,***KN ****
		防衝設備	***製 **型 ***H
		車止め	***製 ***H型
		はしご	***製 **B × ***H

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1位	2位	3位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					
2046					
2047					
2048					
2049					
2050					
・					
・					
・					

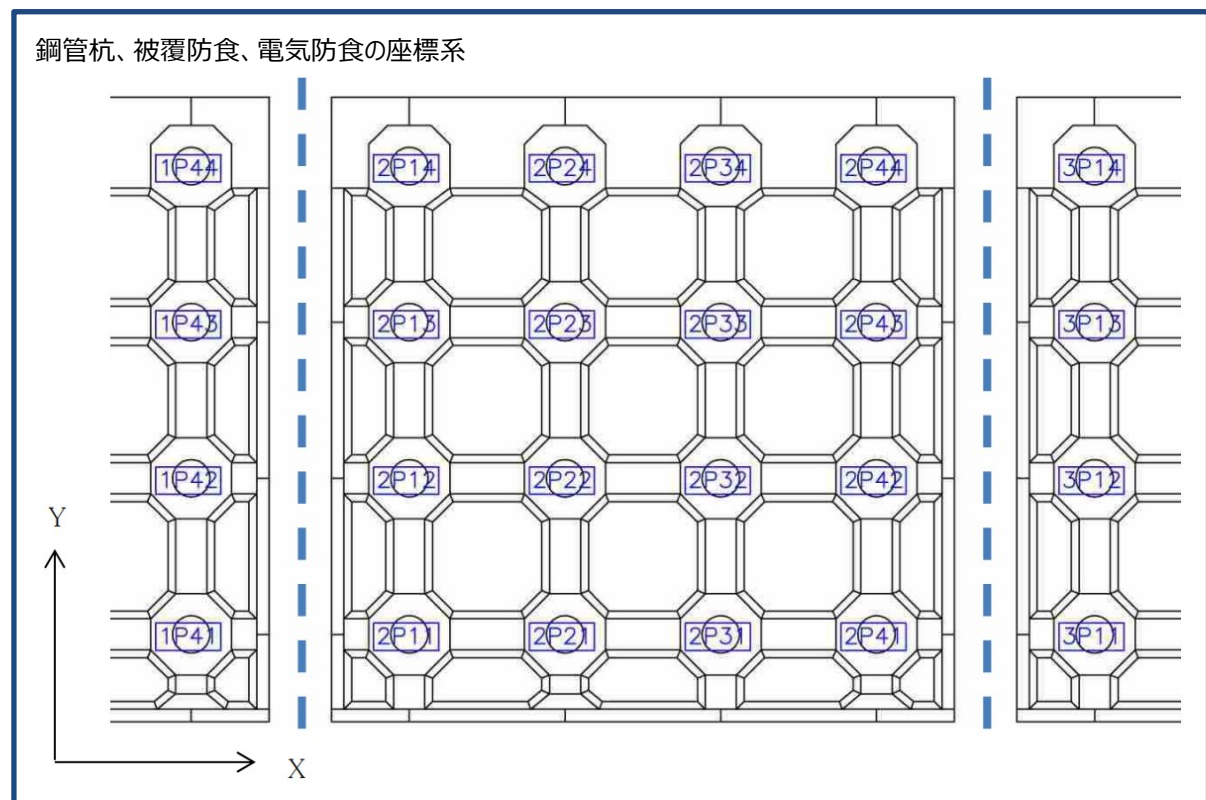
## 参考資料④

座標系及び位置座標

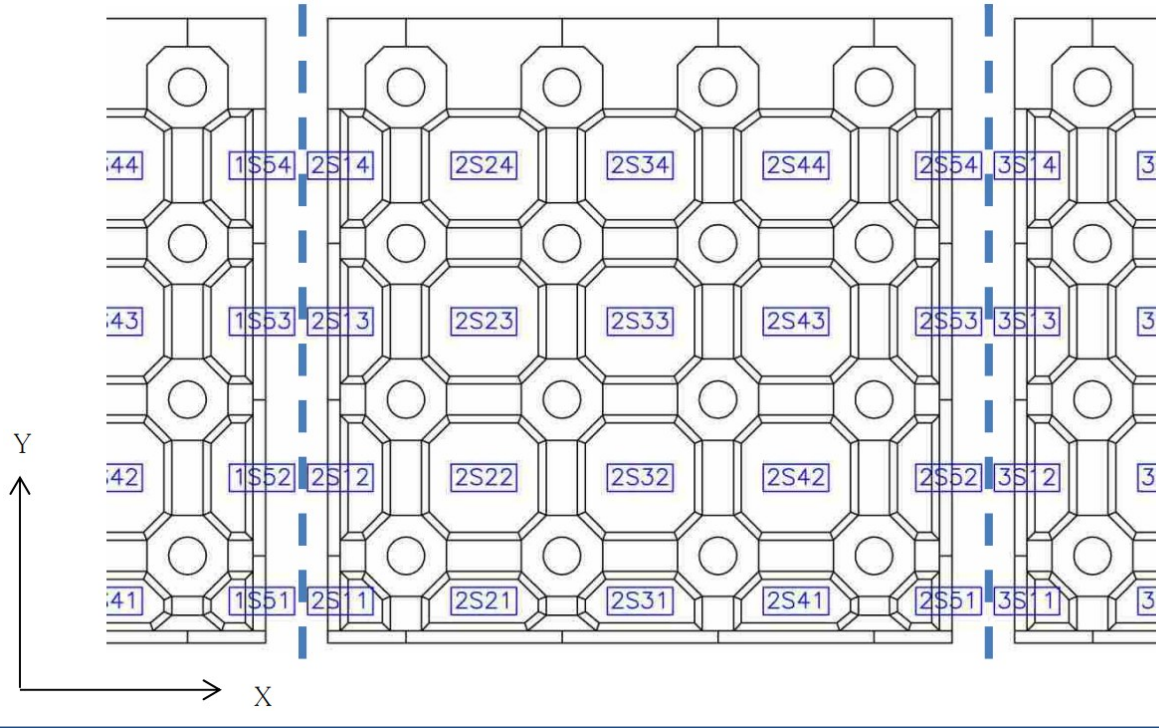
(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	梁	B	Beam
2	床板	S	Slab
3	鋼管杭	P	Pile
4	被覆防食	Ppc	Protection coating
5	電気防食	Pcp	Cathodic protection
6	エプロン	Ap	Apron
7	渡版	Cp	Connection plate
8	防衝設備	F	Fender
9	係船柱	Bo	Bollard
10	車止め	Cu	Curbing
11	はしご	La	Ladder

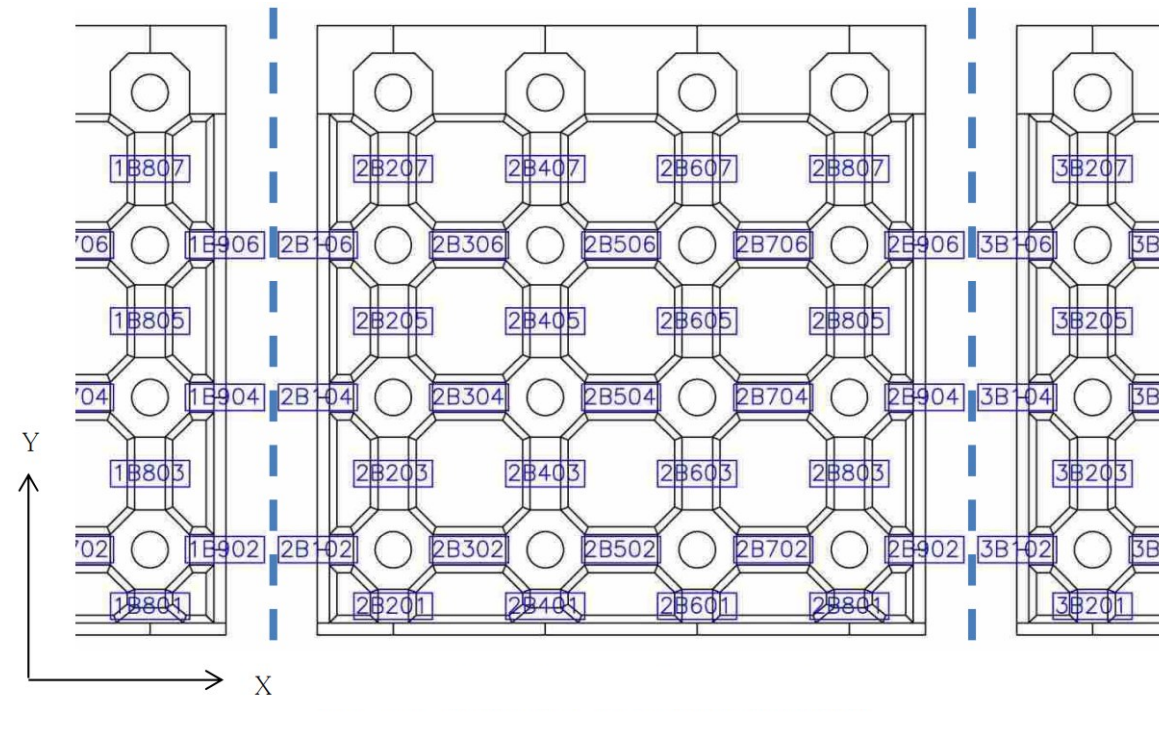
(座標系)

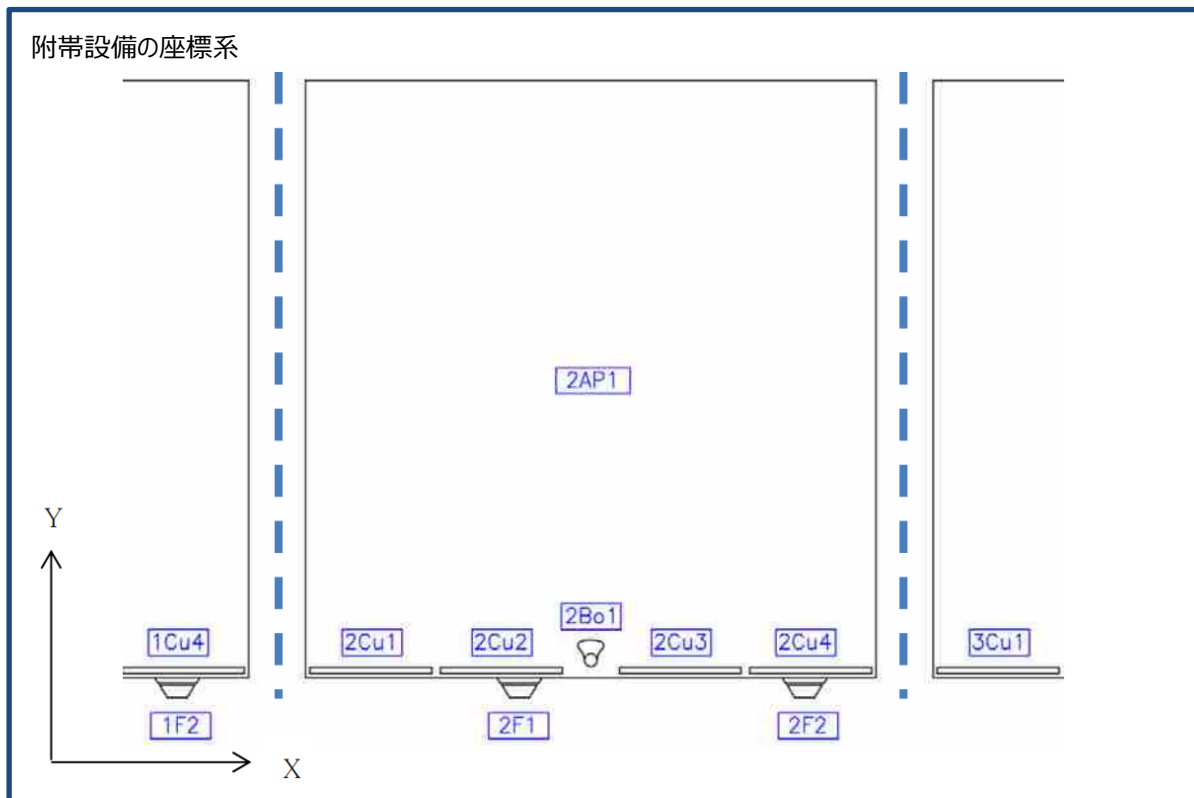


栈橋上部工（下面部）の床板の座標系



栈橋下面部の梁の座標系





(位置座標)

本施設の位置座標 (X 座標、Y 座標、Z 座標) は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

## 初回点検診断結果

必要な情報

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025年初回点検診断時）

部材	維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管 理 に関する方針	総合評価の概要	
		点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
				点検診断 項目					施設 全体
栈橋法線	Ⅲ	凹凸、出入り	変状なし	D	D	<p><b>(将来的計画の評価)</b> -</p> <p><b>(維持工事等の計画)</b> -</p> <p><b>(利用面、財政面、代替案)</b> ・ 施設の重要度は高い</p> <p><b>(応急的措置の必要性)</b> ・ 不要</p> <p><b>(計画的措置の必要性)</b> ・ 不要</p> <p><b>(点検診断計画変更の必要性)</b> -</p>	<p><input type="checkbox"/> 緊急的措置</p> <p><input type="checkbox"/> 応急的措置</p> <p><input type="checkbox"/> 計画的措置</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 経過観察措置</p>	<p>本施設は近隣に代替施設のない大水深の岸壁であり重要度は高いが、新設で変状がないため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。</p>	
エプロン	Ⅲ	沈下、陥没	変状なし	D					
		コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
鋼管杭	Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
鋼管杭（被覆防食工）	Ⅱ	被覆防食工（重防食被覆）	変状なし	D					
鋼管杭（電気防食工）	Ⅱ	電気防食工	変状なし	D					
		電気防食工（陽極）	変状なし	D					
栈橋上部工（下面部）	Ⅱ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
栈橋上部工（側面図）	Ⅱ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
海底地盤	Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
渡版	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
土留部	Ⅰ	ケーソン	側面の劣化、損傷	変状なし					D
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし					D
	Ⅲ	エプロン	上部コンクリート	コンクリートの劣化、損傷					D
			沈下、陥没	変状なし					D
Ⅲ	エプロン	アスファルトの劣化、損傷	変状なし	D					
		吸出し、空洞化	変状なし	D					
付帯設備	Ⅲ	係船柱	本体の劣化、損傷、塗装の剥がれ等の状態	変状なし	D				
	Ⅲ	防衝設備	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	変状なし	D				
	Ⅲ	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D				
	Ⅲ	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D				

維持管理計画書作成事例  
(B) 供用期間を延長する場合  
No11 矢板式係船岸

\*\*港 \*\*地区 \*\*岸壁

維持管理計画書

項目	内容	備考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	**港	
地 区 名	**地区	
施 設 名	**岸壁	
施 設 番 号	C-**-*	

2026年4月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 \*\*県

# 目 次

I	総論 .....	2
I-1	計画の目標.....	2
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	2
I-3	施設に関連する計画.....	2
I-4	維持管理上の諸条件 .....	3
I-5	付随する施設との関連性.....	7
I-6	維持管理レベル.....	8
I-7	座標系、位置座標の設定 .....	9
I-8	初回点検診断結果 .....	9
I-9	その他の配慮事項 .....	9
II	点検診断計画.....	10
III	総合評価 .....	13
IV	維持補修計画.....	13
V	参考資料.....	14

## I 総論

### I-1 計画の目標

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項目	内容	備考
維持管理の計画目標期間	2026～2075年度	供用期間延長
設計供用期間	50年	

供用期間の延長に伴って、  
マーカ部を更新・追記

### I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項目	内容	備考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。 供用期間を延長に伴い、点検診断の強化を行う。	供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記
気候変動適応の考え方	適応策	順応適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

### I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下とおりである。

なお、本施設の所在港湾の関する港湾計画、予防保全計画における位置づけも参考とする。

項目	内容	備考
港湾計画への位置づけ	計画策定年	****年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	無
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

#### I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は、参考資料として添付する。

##### (施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	**港	
地区名	**地区	
施設名	**岸壁	
施設番号	C-**-*	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	**県	

##### (構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	係留施設 岸壁	
構造形式	矢板式係船岸	
水深	D.L.-**.*m	
延長（取付部を含む延長）	**.*m	
面積	**.*m <sup>2</sup>	
天端高	D.L.+**.*m	

##### (自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±**.(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+**.(m)	
	M.S.L.	D.L+**.(m)	
	L.W.L.	D.L+**.(m)	

##### (気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目		内 容	備 考	
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年	2075年	将来作用 基準年時点	
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.		D.L+**.(m)
		M.S.L.		D.L+**.(m)
		L.W.L.		D.L+**.(m)
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.		D.L+**.(m)
		M.S.L.		D.L+**.(m)
		L.W.L.		D.L+**.(m)

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	S42d 技術基準	
	完了年度	H**年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	S42d 技術基準	
	完了年度	H**年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

## (施工履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***岸壁築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
2	件名	***被覆防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
3	件名	***電気防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
4	件名	***エプロン補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
5	件名	***附帯設備補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
6	件名	***上部工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

## (材料特性)

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼矢板	SY***, **型, *** mm	
2	被覆防食	重防食：期待耐用年数**年	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数**年	
4	コンクリート	**-*-* **N	
5	鉄筋	SD***	
6	粗粒度アスファルト	As**	
7	密粒度アスファルト	As**	
8	係船柱	曲柱*, ***KN ****	
9	防衝設備	***製 **型 ***H	
10	車止め	***製 ***H型	
11	はしご	***製 **B × ***H	

## (利用状況)

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項 目		内 容	備 考
主要利用船舶の種類名		****船	
主要取扱貨物		****	
対象船舶	船型	**, ***D/W	
	船席数	**バース	

### I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	***泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	***荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	***上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	***道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	国道**線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

## I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
下部工（鋼矢板等の被覆防食）		Ⅱ（予防保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
下部工（鋼矢板等の電気防食）		Ⅱ（予防保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
下部工（鋼管矢板）		Ⅰ（事前対策型）	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
上部工 エプロン 海底地盤		Ⅲ（事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
附帯設備 係船柱 防衝設備 車止め はしご		Ⅲ（事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

### I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

### I-8 供用期間を延長する際の点検診断結果

本施設の供用期間を延長する際の点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	内 容	備 考
供用期間を延長する際の点検診断	2021 年	一般・詳細

### I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	有	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

## II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、定期点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5年以内ごとに少なくとも1回（点検強化対象の点検診断項目については5年以内に少なくとも2回）	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも1回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び震度5強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、詳細点検診断が必要と判断された場合	
日常点検		パース会議を活用し、定期的に利用上の支障に関するヒアリング	
		点検強化対象の点検診断項目については定期点検診断を行わない年度において、少なくとも1回	
		震度4以上の地震発生後は、鋼管杭の支持力不足に起因する変状の発生がないかを確認	

供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記

(定期点検診断の時期)

本施設の定期点検診断の実績及び実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026	定期点検診断	一般	2051	定期点検診断	一般
2027			2052		
2028			2053		
2029	定期点検診断	一般（強化）	2054	定期点検診断	一般（強化）
2030			2055		
2031	定期点検診断	一般	2056	定期点検診断	一般
2032			2057		
2033			2058		
2034	定期点検診断	一般（強化）	2059	定期点検診断	一般（強化）
2035			2060		
2036	定期点検診断	一般	2061	定期点検診断	一般
2037			2062		
2038			2063		
2039	定期点検診断	一般（強化）	2064	定期点検診断	一般（強化）
2040			2065		
2041	定期点検診断	一般	2066	定期点検診断	一般
2042			2067		
2043			2068		
2044	定期点検診断	一般（強化）	2069	定期点検診断	一般（強化）
2045			2070		
2046	定期点検診断	一般	2071	定期点検診断	一般・詳細
2047			2072		
2048			2073		
2049	定期点検診断	一般（強化）	2074	定期点検診断	一般（強化）
2050			2075		

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
岸壁法線	凹凸、出入り (点検強化対象)	一般	**システム（凹凸、出入りに関する高精度な点検が可能な新技術） ・移動量・沈下量（定量的または写真等で記録）
エプロン	沈下、陥没 (点検強化対象)	一般	**システム（沈下、陥没に関する高精度な点検が可能な新技術） ・沈下、陥没の程度（定量的または写真等で記録）
	アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
	吸出し、空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼矢板等	鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	被覆防食工（重防食被覆） (点検強化対象)	一般	**システム（被覆防食の劣化に関する高精度な点検が可能な新技術） ・被覆の劣化（定量的または写真等で記録）
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	電気防食工	一般	点検診断ガイドラインによる
	電気防食工（陽極）	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工	コンクリートの劣化、損傷 (点検強化対象)	一般	**システム（コンクリートの劣化、損傷に関する高精度な点検が可能な新技術） ・ひび割れ、剥離、損傷 ・鉄筋腐食 ・劣化の兆候 等 （定量的または写真等で記録）
海底地盤	洗掘、堆積 (点検強化対象)	一般	**システム（洗掘、堆積に関して容易に点検が可能な新技術） ・海底面の起伏（定量的または写真等で記録）
		詳細	点検診断ガイドラインによる

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
付帯設備	係船柱	本体の劣化、損傷、塗装のはがれ等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる

### III 総合評価

総合評価は、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。  
 なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

### IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	****年度	
	概算費用	*,***千円	
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

## V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面图

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

( 設計条件 (抜粋) )

項 目		内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性
		変動作用	使用性
		偶発作用	—
利用条件等	設計供用期間		50 年
	計画延長		***.**(m)
	計画天端高		D.L+*.**(m)
	計画水深		D.L-*.**(m)
	設計水深		D.L-*.**(m)
	基本水準面		D.L±*.**(m)
	エプロン復員		*.**(m)
	エプロン勾配		*.*(%)(順勾配)
	対象船舶		**,**(DWT)
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **.**(cm/sec)
	牽引力		*,**(kN)
載荷重		永続作用 **.**(kN/m <sup>2</sup> ) 変動作用 **.**(kN/m <sup>2</sup> )	
自然条件等	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)
		M.S.L	D.L+*.**(m)
		L.W.L	D.L+*.**(m)
	残留水位条件		D.L+*.**(m)
地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
気候変動の 影響を勘案した 潮位	将来作用基準年		***
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)
		M.S.L	D.L+*.**(m)
		L.W.L	D.L+*.**(m)
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)
		M.S.L	D.L+*.**(m)
L.W.L		D.L+*.**(m)	

項 目		内 容		備 考
材料特性	下部工	鋼材	SY***, **型, *** mm	
		被覆防食工	重防食：期待耐用年数 ** 年	
		電気防食工	流電陽極方式：防食年数 ** 年	
	上部工	コンクリート	** - * - * * N	
		鉄筋	SD***	
	控え工	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
	舗装	アスファルト舗装	As**	
	附帯設備	係船柱	曲柱*, *** KN *** *	
		防衝設備	***製 **型 *** H	
		車止め	***製 *** H 型	
		はしご	***製 **B × *** H	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1位	2位	3位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					
2046					
2047					
2048					
2049					
2050					
・					
・					
・					

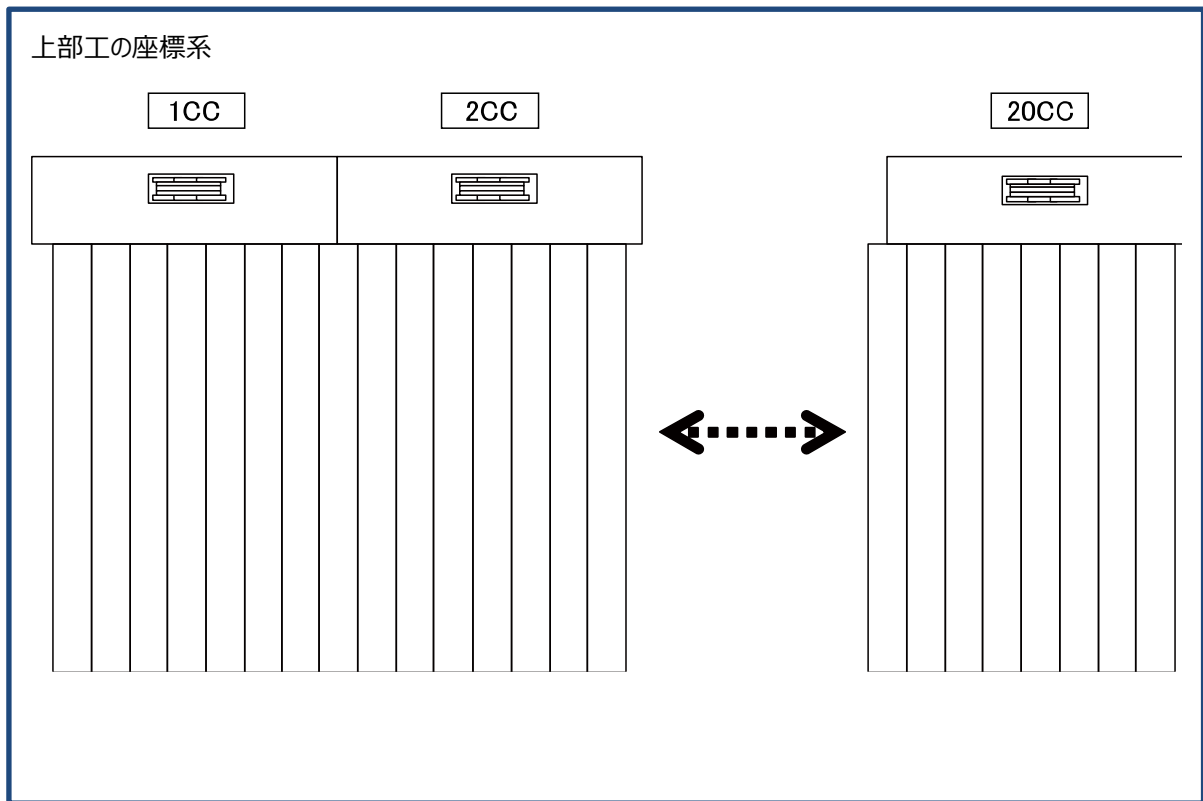
## 参考資料④

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	上部工	CC	Concrete crown

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標 (X 座標、Y 座標、Z 座標) は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

供用期間を延長する際の点検診断結果（一般・詳細）

点検診断区分の変更により、  
マーカ部を追記

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2021年点検診断時）

部材	維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
		点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
				点検診断 項目					施設 全体
岸壁法線	Ⅲ	凹凸、出入り	□ブロックに隣接する上部工との間に10cm未満の凹凸がある。	C	C	<p><b>(将来的計画の評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・供用期間の延長</li> </ul> <p><b>(維持工事等の計画)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微な補修</li> </ul> <p><b>(利用面、財政面、代替案)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の重要度は高い</li> </ul> <p><b>(応急的措置の必要性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不要</li> </ul> <p><b>(計画的措置の必要性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不要</li> </ul> <p><b>(点検診断計画変更の必要性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・供用期間延長後においても十分な配慮が必要な部材については点検を実施</li> <li>・設計供用期間未までに詳細点検診断を実施</li> </ul>	<p>□緊急的措置</p> <p>□応急的措置</p> <p>□計画的措置</p> <p>■経過観察措置</p>	<p>本施設は近隣に代替施設がなく大水深は高いため、供用期間を延長するが、当初設計時の容共性能と原稿技術基準に基づく要求性能との間で生じる水準の差の有無が判断できないため、維持管理での十分な配慮を行うことで供用を継続する。</p> <p>施設の性能低下はほとんど認められないため、日常点検・一般定期点検診断を強化しつつ経過観察措置とする。</p>	
エプロン	Ⅲ	沈下、陥没	□ブロックのエプロンに3cm未満の段差がある。	C					
		コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
		吸出し、空洞化	変状なし	D					
鋼矢板	Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
鋼管杭（被覆防食工）	Ⅱ	被覆防食工（重防食被覆）	▽番の引く夫防食工のボルト、ナット等にゆるみがある。	C					
鋼管杭（電気防食工）	Ⅱ	電気防食工	防食管理電位が維持されている。(950mV)	D					
		電気防食工（陽極）	変状なし	D					
上部工	Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
海底地形	Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
付帯設備	Ⅲ	防衛設備	本体の損傷、破損、腐食	□番の取付金具に発錆がある。	C				
	Ⅲ	係船柱	本体の損傷、塗装、腐食	△番の係船柱の塗装がはがれている。	C				
	Ⅲ	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	▽番の車止めが変形している箇所がある。	C				
	Ⅲ	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D				

維持管理計画書作成事例  
(D) 気候変動の影響を勘案して見直す場合  
No14 ケーソン式防波堤

\*\*港 \*\*地区 \*\*防波堤

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	**港	
地 区 名	**地区	
施 設 名	**防波堤	
施 設 番 号	B-**-*	

2026年4月

施設設置者 \*\*国土交通省

施設管理者 \*\*県

# 目 次

I	総論 .....	2
I-1	計画の目標 .....	2
I-2	維持管理の基本的な考え方 .....	2
I-3	施設に関連する計画 .....	2
I-4	維持管理上の諸条件 .....	3
I-5	維持管理レベル .....	6
I-6	座標系、位置座標の設定 .....	6
I-7	初回点検診断結果 .....	6
I-8	その他の配慮事項 .....	6
II	点検診断計画 .....	7
III	総合評価 .....	8
IV	維持補修計画 .....	8
V	参考資料 .....	9

## I 総論

### I-1 計画の目標

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項目	内容	備考
維持管理の計画目標期間	1996~2045 年度	
設計供用期間	50 年	

### I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項目	内容	備考	
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。		
気候変動適応の考え方	適応策	順応適応策	
	適応の概要	2℃上昇シナリオ	
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設		

気候変動を勘案した見直しにより  
マーカ部を追記

### I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下とおりである。

なお、本施設の所在港湾の関する港湾計画、予防保全計画における位置づけも参考とする。

項目	内容	備考	
港湾計画への位置づけ	計画策定年	****年	
	将来計画	予定なし（現状を維持）	
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）		
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有		
協働防護計画への位置づけ	無		

#### I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、関連図面、材料特性等は参考資料として添付する。

##### (施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	**港	
地区名	**地区	
施設名	**防波堤	
施設番号	B-**-*	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	**県	

##### (構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	外郭施設 防波堤	
構造形式	ケーン式防波堤	
延長	**.*m	
天端高	D.L.+**.*m	

##### (自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±**.(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+**.(m)	
	M.S.L.	D.L+**.(m)	
	L.W.L.	D.L+**.(m)	

##### (気候変動の影響を勘案した潮位)

設計条件に関する項目		内 容	備 考	
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年	2045年	将来作用 基準年時点	
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.		D.L+**.(m)
		M.S.L.		D.L+**.(m)
		L.W.L.		D.L+**.(m)
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.		D.L+**.(m)
		M.S.L.		D.L+**.(m)
		L.W.L.		D.L+**.(m)

気候変動を勘案した見直しにより  
マーカ部を追記

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	S42d 技術基準	
	完了年度	H**年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	S42d 技術基準	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***防波堤本体工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
2	件名	***防波堤築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
3	件名	***防波堤消波工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

通番	項 目	内 容	備 考
1	コンクリート	** - * - * * N	ケーソン
2	鉄筋	SD * * *	
3	ケーソン中詰砂	転用材 ** ~ * * * kg/個程度	
4	コンクリート	** - * - * * N	消波ブロック
5	コンクリート	** - * - * * N	根固ブロック
6	基礎捨石	転用材 ** ~ * * * kg/個程度	
7	被覆石	転用材 ** ~ * * * kg/個程度	

### I-5 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称	維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
ケーソン	Ⅰ (事前対策型)	A	—
		B	緊急的措置並びに応急的措置
		C	計画的措置
		D	経過観察措置
上部工 消波工 海底地盤	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	

### I-6 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

### I-7 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	内 容	備 考
初回点検診断	2014年	一般・詳細

### I-8 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

## II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、定期点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5年以内ごとに少なくとも1回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも1回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び震度5強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、詳細点検診断が必要と判断された場合	

(定期点検診断の時期)

本施設の定期点検診断の実績及び実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
1996			2021		
1997			2022		
1998			2023		
1999			2024	定期点検診断	一般
2000			2025		
2001			2026		
2002			2027		
2003			2028		
2004			2029	定期点検診断	一般
2005			2020		
2006			2031		
2007			2032		
2008			2033		
2009			2034	定期点検診断	一般
2010			2035		
2011			2036		
2012			2037		
2013			2038		
2014			2039	定期点検診断	一般
2015			2040		
2016			2041		
2017			2042		
2018			2043		
2019	定期点検診断	一般	2044	定期点検診断	一般・詳細
2020			2045		

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
防波堤全体	移動	一般	点検診断ガイドラインによる
	沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
ケーソン	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
消波工	移動、散乱、沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	損傷、亀裂	一般	点検診断ガイドラインによる
海底地盤	洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
被覆工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる
根固工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる

### III 総合評価

総合評価は、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。  
 なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

### IV 維持補修計画

維持補修計画は該当無。

## V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 座標系及び位置座標
- ④ 点検診断結果
- ⑤ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面图

標準断面図

## 標準断面図

(2℃上昇シナリオに対応する断面)

気候変動を勘案した見直しにより  
マーカ部を追記

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

( 設計条件 (抜粋) )

項 目		内 容		備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	—	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.***(m)	
	計画天端高		D.L+**.***(m)	
	基本水準面		D.L±**.***(m)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+**.***(m)	
		M.S.L	D.L+**.***(m)	
		L.W.L	D.L+**.***(m)	
	波浪条件		$H_{(1/3)}$ **.***(m)	
	地震条件		レベル 1 地震動 kh = **.**	
【気候変動の影響を勘案した潮位】	将来作用基準年		****年	
	2℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+**.***(m)	
		M.S.L	D.L+**.***(m)	
		L.W.L	D.L+**.***(m)	
	4℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+**.***(m)	
		M.S.L	D.L+**.***(m)	
		L.W.L	D.L+**.***(m)	
材料特性	本体工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	上部工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	中詰工	中詰砂	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
	消波工	コンクリート	* * - * - * * N	
	根固工	コンクリート	* * - * - * * N	
	基礎工	基礎捨石	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
被覆工	被覆石	転用材 * * ~ * * * kg/個程度		

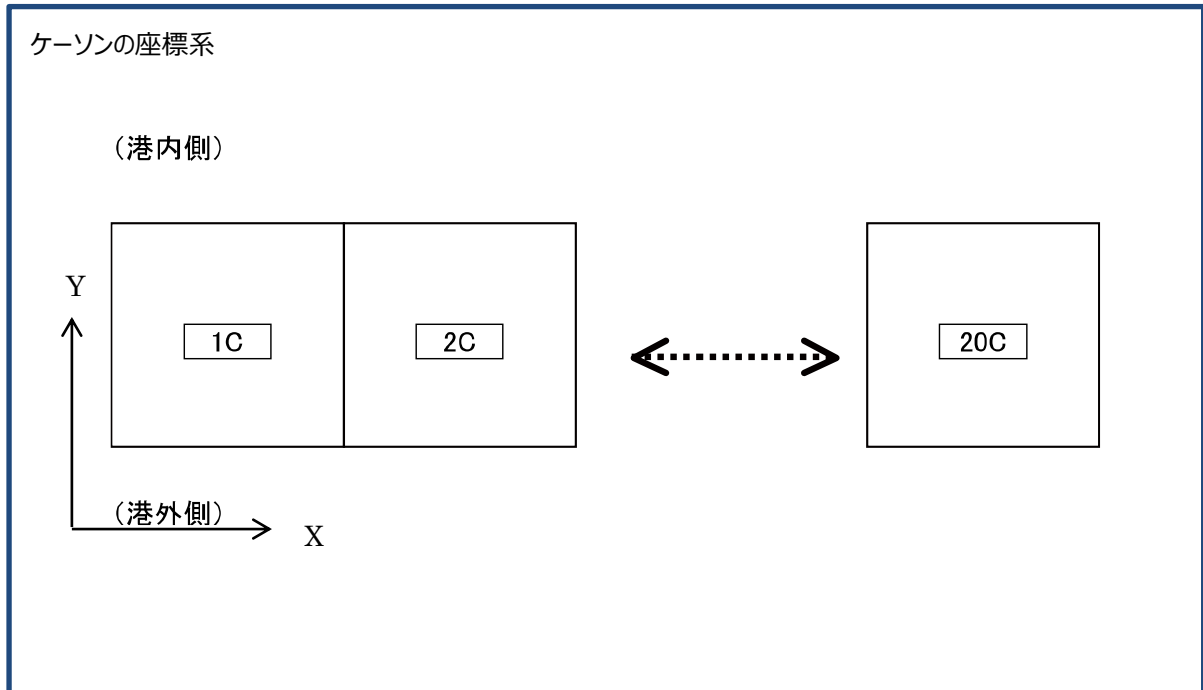
## 参考資料③

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	ケーソン	C	Caisson

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標 (X 座標、Y 座標、Z 座標) は必要に応じて設定する。

参考資料④

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

一般定期点検診断結果

参考資料⑤

総合評価結果

総合評価結果（2024年点検診断時）

部材	維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
		点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
				点検診断 項目					施設 全体
防波堤全体	Ⅲ	移動	防波堤全体に小規模なずれが生じている。	C	C	<b>(将来計画の評価)</b> ・要求性能の変更  <b>(維持工事等の計画)</b> ・軽微な補修  <b>(利用面、財政面、代替案)</b> ・施設の重要度は中程度  <b>(応急的措置の必要性)</b> ・不要  <b>(計画的措置の必要性)</b> ・  <b>(点検診断計画変更の必要性)</b> ・設計供用期間未までに詳細点検診断を実施	<input type="checkbox"/> 緊急的措置 <input type="checkbox"/> 応急的措置 <input type="checkbox"/> 計画的措置 <input checked="" type="checkbox"/> 経過観察措置	本施設は施設の性能の低下はほとんど認められない状態であり、次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。	
		沈下	防波堤全体に小規模な段差がある。	C					
ケーソン	I	コンクリートの劣化、損傷	□ブロックで1方向に3cm程度のひび割れがある。	C					
上部工	Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	△ブロックの上部工で幅1cm未満のひび割れがある。	C					
消波工	Ⅲ	移動、散乱、沈下	▽ブロックの消波ブロックの一部が移動している。	C					
		損傷、亀裂	欠損や部分的な変状があるブロックが多数個ある。	C					